



2009年12月10日 第2329回例会 週報2155号

2009-2010年度RIテーマ

「ロータリーの未来はあなたの手に」

富田林ロータリークラブ

- ❖ 国際ロータリー会長：JOHN KENNY
- ❖ 2640地区ガバナー：村上有司
- ❖ 創立：昭和37年6月6日
- ❖ 会長：辻 隆司 ❖ 幹事：田中正章 ❖ 会報委員長：寺田廣美
- ❖ 例会：富田林市民会館 毎週木曜日 12:30～13:30



ロータリーの未来は
あなたの手に

❖ 事務局 ❖ 〒584-0012 富田林市粟ヶ池町2969-5

<Tel>0721-26-0133 <Fax>0721-26-0443

<URL> <http://tondabayashi-rc.org/>

<E-mail> kikusui@abeam.ocn.ne.jp

本日のプログラム

- ソング 四つのテスト
- 総会

今後の予定

- 12月11日(金) IAC委員顧問会議
- 12月12日(土) 河内長野東RC25周年式典
- 12月12-13日 第6回富田林RCカップ
 中学生サッカー大会
- 12月17日(木) 卓話 豊岡敬会員
 理事会(6)
 表彰祝賀会(18時～二葉館)
- 12月20日(日) 富田林RACチャリティコンサート
- 12月24日(木) 年内最終例会

出席報告

例会日	会員数	出席者	MU	出席率
12/3	33(7)	14(2)	3	57.69%
11/26	33(7)	23(4)	0	73.08%
11/19	33(7)	21(4)	1	69.23%

()内は出席免除会員

今週の歌



四つのテスト

真実かどうか
 みんなに公平か
 好意と友情を深めるか
 みんなのためになるかどうか

ビジター・ゲスト歓迎の歌

Welcome to our club meeting
 Welcome our many wonderful friends
 今日の一時 どうぞごゆっくり

● 4つのテスト ●

言行はこれに照らしてから

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

家 族 月 間

11月26日 第2327回 例会記録

★ゲスト

- ・国際ロータリー2640 地区ガバナー 村上有司様
- ・国際ロータリー2640 地区副代表幹事 坪井敏行様
- ・国際ロータリー2640 地区ガバナー補佐 辻知昭様
- ・明治池中学校 上村武史先生



村上有司ガバナー公式訪問
並びに
富田林南RCと合同例会



例会終了後
お茶を飲みながらの座談会

委員会報告

●明治池中学校・・・上村武史先生



12月12日(土)13日(日)に開催されます、第6回 富田林ロータリークラブカップ中学生サッカー大会のご案内をさせていただきます。

本日はパンフレットをお配りいたします。

どうぞよろしくお願ひ致します。

●社会奉仕委員会・・・遠藤特一会員

日本アシスタンスドッグ支援協会へ以下の通り送金致しました。

11月の募金 5,633円 皆様の御協力どうもありがとうございました。



会長の時間・・・辻隆司会長

今日は村上有司ガバナーの公式訪問です。

孔子の言葉に、子曰く

「学びて時にこれを習う、また説（よろこ）ばしからずや、

朋あり遠方より来る。又楽しからずや、

人知らずして慍（うら）みず、また君子ならずや」とあります。

田辺の地から来られた村上ガバナーを歓迎したいと思います。

この例会場のある市民会館には日本で最も古い溜め池があり、また東の方には金剛、葛城、二上山の連山が連なり、昔、楠木正成が北条軍と戦った土地であります。

村上ガバナーは例会の充実無しではクラブの発展はないと、いつも話しをされていました。我々も例会の充実努めていきます。今後ともご指導よろしくお願ひします。

ガバナーアドレス・・・国際ロータリー第2640地区 村上有司ガバナー

公式訪問にあたって ごあいさつ

1. 公式訪問は、地区で唯一のR I の役員であり、地区管理者であるガバナーが、地区内クラブを訪問し、(イ) R I の現状と方針を伝えること、(ロ)今年度地区計画を説明し、又各クラブの問題点を検討することを目的として行われます。私は、各クラブが日頃開催している例会場を直接訪ね、皆様方と意見交換をすることにしました。



2. 「R I の現状と方針」について

ロータリークラブは、200余の国又は地域に、32000を超えるクラブと120万人余の会員をもつ世界最大の民間奉仕団体に成長しました。しかし、ここ数年会員の減少傾向に歯止めがかからず、又ロータリー組織のあり方や活動方針をめぐる意見の違いなどから、「最近のロータリーは何かおかしい」との声をよく聞きます。

そんな中ジョン・ケニーRI会長は、今年1月サンディエゴ(米国)で開かれた“国際協議会”で、2009～2010年度のR I のテーマを「The Future Of Rotary Is In Your Hands (ロータリーの未来は、あなたの手の中に)」とすると声高く宣言されました。ともすれば、「R I 本部こそが、ロータリーの指揮・命令の発進源である」との考えが強まっている中で、「ロータリーの未来をつくるのは、エバンストン(ロータリー本部)でなく、あなた方クラブである」との提言は格調の高いものです。リベラル派のケニー会長に期待するところ大なるものがありますが、肥大化したR I 組織にあって、会長一人の掛け声で直ちに方向が変わるほど生易しい問題ではありません。各クラブあるいはロータリアン一人一人が、ケニー会長の声明を体得して、この機会に「未来のロータリーをつくるのは自分達である」と自覚し、自主的にロータリー活動に参加する事が大切であります。ロータリアン一人一人が、自らのクラブを光り輝く存在に作りあげれば、ロータリー全体の社会的評価が上り、会員数も自然に増加すると思ひます。

R I は、本年度の強調事項として、「水問題、保健・飢餓救済、識字率向上」をあげ、その実

現に向かってR I自身も対策を立てています。しかし、各クラブが立案し実行しようとしている、教育的プログラム・人道的プログラムを側面から応援することにも力をつくします。いずれも多くの資金を必要としますが、これを支えるのが 92 年の歴史を有する“ロータリー財団”であります。リーマンショックに端を発する世界不況の影響を受け、ロータリー財団は大きく傷ついています。この不幸に打ち勝つ力は充分あります。今発表されている損失は、「帳簿の評価替えにより計上された“未実現損失”で、倒産等の心配はない。景気が好転すれば回復するものだ」とR Iは発表しています。御安心をいただき、スムーズなロータリー活動を実行するため一層の御協力をお願いします。

この関係で、ポリオ撲滅について触れる必要があります。ロータリーでは 1985 年からポリオ撲滅運動を実践し、大きな成果を上げてきましたが未だに完全撲滅に至っていません。果たして、それは可能かとの疑念の声も聞かれますが、今これを中止することはこれ迄の運動を徒労に終わらせることとなります。幸に、ポリオ撲滅に強い関心をもつ、“ゲイツ財団”が、「3 億 5500 万ドルをこの運動に使いたい」と申し出ています。この申し入れには、「ロータリーも合計 2 億ドルを集めるよう」とのチャレンジがついています。色々の考え方はあると思いますが、ゲイツ財団が多額の寄付金の提供を申し出ている今、これに呼応してポリオ撲滅に一層の努力することも大切であると思います。2007 年の規定審議会で、「ポリオ撲滅は、ロータリーの最優先目標とする」との決議がなされている以上、この目標に向かって努力することは、ロータリーの至上命題であるからです。

3. 「地区の計画と方針」について

R I の方針を受けて、地区はこれを発展させると同時に、地域性を発揮して独特な計画を立てることになります。

当地区も会員減少に苦しんでいます。最大 3750 人を越えた会員が、本年 6 月末には 2233 人に迄減少しました。色々の理由はありますが、地区の存亡にも関わるこの事態を放置しておく訳にはいけません。当初、「純増 2 名」を各クラブにお願いをしたのですが、余りの会員減に「純増 3 名」に目標を改めました。各クラブでは、異常事態を認識いただき増強運動は盛り上がっていると聞き及んでいます。又 1~3 の新クラブ創設についても、英知をもって実現したいものと考えます。いずれも、現下の経済状況ではむづかしい作業ですが、未来の地区又はクラブのためには、避けて通れない問題であり、大同団結して事に当たる必要があると思います。

前述の通り、ロータリー活動をスムーズに実行するためには、財政的裏付けが必要です。ロータリー財団と米山記念奨学会への浄財寄付については、是非共御協力をお願いしなければなりません。ロータリー財団へは一人当たり 200 ドル、米山奨学会へは一人当たり 2 万円を目標に御寄付をお願いしています。皆様から供出いただいた資金を上手に使い、弱い人・困っている人・助けを求めている人々に対し、少しでも善意を届け、平和で楽しい社会づくりの一助になればと念じています。

今年度地区活動方針は「歴史に学び、変革と進歩を」です。又キーワードは「縁づくり」としました。ロータリークラブが、100 年を超える時代を生き抜いて、今尚発展を続けているのは、時代の流れを適確に捉えこれに対応する柔軟性をもっていたからだと思いますが、それでも時代遅れと思われる点が目につき、「変革と進歩」をしなければなりません。しかし、その一方で、ポール・ハリスが、創立に当たって願念した「胸襟を開いて話し合える友達をつくりた

い」の精神は、今のロータリーに引き継がれていることも忘れてはなりません。ロータリー活動を通じ、「縁づくり」の機会を見つけ、人生におけるかけがえのない友達を見つけて下さい。そのためには、毎週開かれる例会が、会員にとって“オアシス”となるよう楽しく充実したものにする必要があります。アイデアを出して、時代に合った例会づくりに努めて下さい。

4. 皆様のクラブにとって、この一年間が記憶にも・記録にも残る一年であることを祈りながら、挨拶とします。

謝辞・・・富田林南RC 古川元一会長



本日は、村上ガバナー、坪井副代表幹事、辻ガバナー補佐、両クラブに対して御指導いただきまして、誠に有難うございました。今年度R I 会長のテーマ、そして村上ガバナーの掲げるテーマとキーワードについてのご説明をいただき、有難うございました。これを機にクラブの活動につなげていきたいと感じております。この会場におられるすべての皆さんに感謝申し上げ、謝辞とさせていただきます。

ニコニコ

- ☺ 辻会員 公式訪問有難うございます。嬉しい事がありました
- ☺ 田中会員 村上ガバナー よこそおいで下さいました
- ☺ 杉多弘至 皆さん、お元気でホットしております
- ☺ 豊岡会員 村上ガバナー公式訪問ありがとうございます
- ☺ 河村会員 村上ガバナー公式訪問歓迎
- ☺ 瀧会員 村上ガバナーを迎えて 天気の良い日で良かったです
- ☺ 小寺会員 ガバナー訪問 感謝
- ☺ 森井会員 村上ガバナー ありがとうございます
- ☺ 大島会員 欠席のお詫び
- ☺ 藤野会員 ガバナー訪問ありがとうございます
- ☺ 千田会員 村上ガバナーご訪問ご指導ありがとうございます
- ☺ 横山会員 ガバナー訪問ありがとうございます
- ☺ 松澤会員 村上ガバナー公式訪問ありがとうございます
- ☺ 楠田会員 ガバナー訪問ありがとうございます
- ☺ 中畑会員 日帰り親睦旅行 参加申し込みお礼

小計 81,000 円

月例ニコニコ

- ☺ 松井会員 誕生日・入会記念日
- ☺ 上野会員 結婚記念日
- ☺ 豊岡会員 奥様誕生日・結婚記念日・職業奉仕記念日

小計 30,000 円

小計 111,000 円

累計 897,000 円

12月3日 第2328回 例会記録

『行き先』 兵庫県龍野方面

『参加者』 会員 13名 奥様 10名 フレデリック君 事務局員 (合計 25名)

写真は後日掲載いたします。

地区行事その他出席者

★美原RC (11/27) 豊岡会員

★第1回PETS (12/5-6) 森井会員

★2640地区ROTEX主催USJ遠足 (12/5) 豊岡会員



会員通信

● 世界の情報 「有益」の意義・・・寺田廣美会員

飢えた子供に将来の夢の可能性を語りかけるよりは、まずその場で一食を作ってやる方がはるかに役に立つ。日々の暮らしは現実的で生活感に支えられています。反論は当然あります。いや、追う夢のない三度の食事だけの生活で満足するには、人間はできていない。夢はまた、未来の子供たちを飢餓から解放できる有益な手だてになるかもしれないと。

計9日間の行政刷新会議による事業仕分けは多かれ少なかれ、「役に立っているか」という観点で進められてきました。現実か可能性か、目前の無駄削減か、将来の有益性か。とりわけ科学技術の研究開発費予算をめぐる議論では、不要とされた仕分けの結論に科学者たちが反論しています。有益の最終的な意義付けは政府の仕事になります。納税者の暮らしの場での実感に、科学の夢の有用性をどこまで訴え掛けることができるか。科学技術に携わってきた人、政府の決定にかかわる人たちに今必要なのは、その問題意識です。

科学予算の仕分けで特に注目されたのは、文部科学省の次世代スーパーコンピューター開発事業です。世界最高性能を目指す理化学研究所などの共同開発費として来年度予算概算要求に267億円を計上しましたが、事実上凍結となりました。このほか宇宙航空研究開発機構が担う国際宇宙ステーションへの無人補給機「HTV」は10%削減、官民共同開発ロケット「GX」計画は廃止とされました。

ノーベル賞受賞者がそろって声を上げたことで、科学界からの反論にも関心が集まりました。「科学技術はコストではなく投資である。仕分けは一緒くたにしている」「資源の乏しいわが国にとって科学技術の脆弱化は国家の衰退を意味する」。野依氏らはそう主張します。東北大など国立大10校の理学部長会議も「短期的成果主義」による拙速な選別を批判する緊急提言を発表し、ほかの学術団体からも反論が相次いでいます。

本当にコストの面では無駄がなかったのか、納税者の生活意識は今、科学に対してそう問いかけています。この問いは、投資する価値がどれだけ丁寧に説明されてきたのかという懐疑と不満にあると思います。政治が問われているのは、科学技術立国という構想を、どのようにしようというのか、その点です。無駄を排除する作業それ自体からは、この社会の望ましい確かな将来像はみえてこないのではないのでしょうか。